

土曜
ASHUREY CLASS

原文で味わう詩篇

תהלים

No.10 (詩篇5篇 ②) 2024. 9. 07

「詩篇」を学ぶ上で大切な視点

【新改訳2017】ヨハネの福音書5章39～40節

39 あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思って、聖書を調べています。

その聖書は、わたしについて証ししているものです。

40 それなのに、あなたがたは、いのちを得るためにわたしのもとに来ようとはしません。

※イエシュアは私たちに聖書を正しく解釈することを教えています。それはイエシュアという鍵を入れ込むことで、初めて言わんとすることが見えてくるということです。詩篇もそのように、預言的、奥義的、重層的に読んでいきたいと思えます。

1. 詩篇5篇のテキスト

【新改訳2017】詩篇5篇8～12節

- 8 主よ 私を待ち伏せている者がいますから
あなたの義によって私を導いてください。
私の前に あなたの道をまっすぐにしてください。
- 9 彼らの口には真実がなく 心にあるのは破壊です。
彼らの喉は開いた墓。 彼らはその舌でへつらうのです。
- 10 神よ 彼らに責めを負わせてください。
彼らが自分のはかりごとで倒れますように。
その多くの背きのゆえに 彼らを追い散らしてください。
あなたに逆らっているからです。
- 11 どうか あなたに身を避ける者がみな喜び
とこしえまでも喜び歌いますように。
あなたが彼らをかばってくださり
御名を愛する者たちが あなたを誇りますように。
- 12 主よ まことにあなたは 正しい者を祝福し
大盾のように いくつしみでおおってくださいます。

2. 人称の確認 ①

【新改訳2017】詩篇5篇8～12節

- 8 主よ **私**を待ち伏せている者がいますから
あなたの義によって**私**を導いてください。
私の前に あなたの道をまっすぐにしてください。
- 9 **彼ら**の口には真実がなく 心にあるのは破壊です。
彼らの喉は開いた墓。 **彼ら**はその舌でへつらうのです。
- 10 神よ **彼ら**に責めを負わせてください。
彼らが自分のはかりごとで倒れますように。
その多くの背きのゆえに **彼ら**を追い散らしてください。
あなたに逆らっているからです。
- 11 どうか あなたに身を避ける者がみな喜び
とこしえまでも喜び歌いますように。
あなたが**彼ら**をかばってくださり
御名を愛する者たちがあなたを誇りますように。
- 12 主よ まことにあなたは正しい者を祝福し
大盾のように いくしみでおおってくださいます。

2. 人称の確認 ②

【新改訳2017】詩篇5篇8～12節

- 8 主よ 私を待ち伏せている者がいますから
あなたの義によって私を導いてください。
私の前に あなたの道をまっすぐにしてください。
- 9 彼らの口には真実がなく 心にあるのは破壊です。
彼らの喉は開いた墓。 彼らはその舌でへつらうのです。
- 10 神よ 彼らに責めを負わせてください。
彼らが自分のはかりごとで倒れますように。
その多くの背きのゆえに 彼らを追い散らしてください。
あなたに逆らっているからです。
- 11 どうか あなたに身を避ける者がみな喜び
とこしえまでも喜び歌いますように。
あなたが彼らをかばってくださり
御名を愛する者たちがあなたを誇りますように。
- 12 主よ まことにあなたは正しい者を祝福し
大盾のように いくしみでおおってください。

2. 人称の確認 ④

彼ら

A

(8~10節)

- ① 私を待ち伏せている者(複数)
口には真実がなく 心にあるのは破壊
喉は開いた墓 舌でへつらう
- ② 主に逆らっている者(複数)

彼ら

B

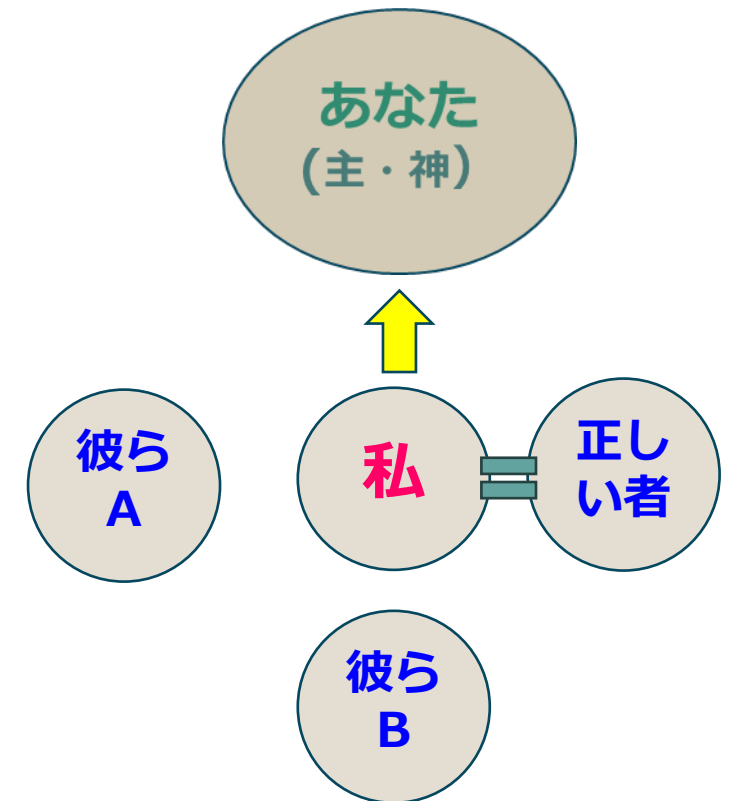
(11~12節)

- ① 主に身を避ける者(複数)
- ② 御名を愛する者たち (複数)

正しい者

(13節)

「ツアツディーク」(אֲתִיקִים) **単数**・**集合名詞**



3. 嘆願か、信仰告白か ①

- 【新改訳2017】 11節は嘆願で訳されていますが、新共同訳(=12節)は以下のように信仰告白で訳されています。

【新共同訳】

あなたを避けどころとする者は皆、喜び祝い／とこしえに喜び歌います。
御名を愛する者(複)はあなたに守られ／あなたによって喜び誇ります。

- 12(13)節は、いずれも信仰告白として訳されています。

【新改訳2017】

主よ まことにあなたは正しい者を祝福し
大盾のように いつくしみでおおってください。

【新共同訳】

主よ、あなたは従う人を祝福し／
御旨のままに、盾となってお守りくださいます。

3. 嘆願か、信仰告白か ②

●文法的には嘆願、信仰告白、いずれも可能です。

11 どうか(原文にはない) あなたに身を避ける者がみな喜び
とこしえまでも喜び歌いますように。

あなたが彼らをかばってくださり

御名を愛する者たちがあなたを誇りますように。

12 主よ まことにあなたは正しい者を祝福し
大盾のように いくしみでおおってくださいます。

●もし、これを信仰告白として理解するなら(私訳)

11 あなたに身を避ける者はみな喜び とこしえまでも喜び歌います。

あなたは彼らを覆われるので 御名を愛する者たちはあなたを誇ります。

12 なぜなら(原文は「キー」^{קִי})、主よ あなたは正しい者を祝福し
大盾のように 喜びで(^{וְשִׂמְחָה})(彼を)困んでくださるからです。

4. 「大盾」(「ツィンナー」 קֶשֶׁט)

● 「盾」という表現はすでに3篇でも扱いました。しかし詩5篇で扱うのは「大盾」です。3篇の「盾」は「マーゲン」(מָגֵן)、5篇の「大盾」は「ツィンナー」(קֶשֶׁט)です。「大盾」は、ペリシテの巨人ゴリヤテの盾持ちが持っていた盾です。ゴリヤテそのものが2.64メートルの背丈ですから、その盾は大変なものであることが想像できます。しかし、ダビデはこのゴリヤテのこめかみに石を当てて、一発で倒した話は有名です。この「大盾」にたとえられるような、主の愛(「ラーツォーン」רַחֲמָנִים)で囲まれる、すっぱり包みこんでしまう恵みがあることを告白しています。「誇り高ぶる者」「偽りを言う者」「待ち伏せている者」がいる中で、主に身を避ける者たち、御名を愛する者たちを祝福し、「大盾で囲むように、主の愛で囲んでくださる」とは何と幸いなことでしょう。

5. 「喜び」 (「ラーツォーン」 נִצְחָה)

● 「ラーツォーン」 (נִצְחָה) は「喜び、恵み、好意、願い」を意味します。初出箇所(創49:6)では「ほしいまま、思いのまま」と訳されています。主によって用いられるとき、そこには主の「喜び」があります。この主の「喜び」を「みむね、みこころ」(エペソ1:9、黙示録4:11)とも訳されます。

【新改訳2017】ヨハネの黙示録4章11節

主よ、私たちの神よ。あなたこそ栄光と誉れと力を受けるにふさわしい方。あなたが万物を創造されました。みこころ(=喜び/נִצְחָה)のゆえに、それらは存在し、また創造されたのです。」

※マタイ26章39節「あなたのみこころのように(ままた)」

6. 「囲まれる」(「アータル」 אָטאַר) ①

● 「囲まれる」と訳されたアータル(אָטאַר)は防衛の恩寵用語です。旧約で2回、詩篇では5篇12節のみで「包囲する、覆う、包むようにして守る」という意味です。私たちの心、精神の中心はとても柔らかくて傷つきやすく、私たちはそれを守るためにいろいろな盾を持って生きています。どんな盾をもっているかが、人生を大きく左右します。私たちは覆いがないければ生きることができません。生まれたばかりの赤子には親の覆いがあります。社会には自分を守ってくれる覆いがあります。しかしその覆いが無責任であったり、気まぐれであったりすると、その覆いの下にいる者たちはひどく傷つくことになります。良い確かな覆い持つ者は幸いです。この詩篇の作者は、喜びをもって取り囲んで下さっている方、主がおられることを告白しています。

6. 「囲まれる」(「アータル」 אָרַטַר) ②

- 12節の後半の原文と諸訳は次の通りです。

タテレンヌー ラーツォーン カツツンナー
אָרַטַר אָרַטַר אָרַטַר
あなたは彼を囲む 愛(喜び)で 大盾のように

「御旨のままに、盾となってお守りくださる」(新共同訳)

「恵みをもってこれをおおい守られます」(口語訳)

「大盾のように恩顧で彼を包んで下さる」(岩波訳)

「恵みの盾で囲んでくださる」(典礼訳)

「大盾のように いくしみでおおってくださいませ」(新改訳2017)

「大盾のように 喜びで彼を囲んでくださる」(私訳)

6. 「囲まれる」 (「アータル」 אָטַר) ③

● 「アータル」 (אָטַר)の類義語としては以下のものがあります。

(1) 「カーサー」 (קָסַר) 「庇う、守る」 ・ ・ 旧約152回、詩篇17回。

(2) 「サーヴァヴ」 (סָוַו) 「取り囲む」 ・ ・ 旧約162回、詩篇22回。

「主に信頼する者には、恵みがその人を取り囲む」 (詩32:10)

(3) 「ハーナー」 (הָנָה) 「陣を張る、陣を敷く」 ・ 旧約143回、詩篇3回。

「主の使いは、主を恐れる者の回りに陣を張る」 (詩34:7)

● 使徒パウロは他の人々から彼は狂っていると称されました。

「だとすれば、キリストの愛が私たちを取り囲んでいる(スネコー σὺνεχω)からだ」 (Ⅱコリ5:14) というのがパウロの言い分でした。

6. 「囲まれる」(「アータル」 אָטַר) ④

【新改訳2017】詩篇125篇2節

エルサレムを山々が取り囲んでいるように

主は 御民(=イスラエル)を今よりとこしえまでも囲まれる。

(※ここでは「サーヴィーヴ」(צָבַח)が二回使われています。)

●ここでは「大盾」ではなく、「主ご自身」が御民イスラエルを取り囲んでくださるとしてあります。イエシュアの中へと逃げ込むすべての者たちも同様に取り囲んでくださるのです。

「主こそ、わが盾(大盾)」と告白しましょう。

7. 「御国」の視点から

【新改訳2017】ヨハネの黙示録7章2～4節

2 また私は、もう一人の御使いが、日の昇る方から、生ける神の印を持って上って来るのを見た。彼は、地にも海にも害を加えることを許された四人の御使いたちに、大声で叫んだ。

3 「私たちが神のしもべたちの額に印を押してしまうまで、地にも海にも木にも害を加えてはいけない。」

4 私は、印を押された者たちの数を耳にした。それは十四万四千人で、イスラエルの子らのあらゆる部族の者が印を押されていた。

●ここで「生ける神の印を押された者たち」とは、「イスラエルの残りの者」です。彼らは獣と呼ばれる反キリストから守られ、生きながらえます。まさにそれは「**大盾で囲われた者**」と言えます。